

学校だより

1月号

一中の桜並木

令和8年1月13日



「教育目標」

考える人

思いやりのある人

助け合う人

成しとげる人



一中HP

連雀学園三鷹市立第一中学校 校長 宮城 洋之

学びをつなぐ —始業式・校長講話—

校長 宮城 洋之

明けましておめでとうございます。

令和8年(2026年)がスタートしました。年末の終業式で一中生の皆さんに話したように、午年の「午」は飛躍と繁栄の象徴とされます。ぜひ、自分の次のステップに向けてチャレンジしてみてください。

☆ ☆ ☆

さて、3学期は短い学期ではありますが、卒業式を筆頭に本校にとって重要な意味をもつ学校行事がいくつもあります。たとえば1年生は中学生として初めての宿泊行事となる自然教室があり、2年生も校外学習(一中としては2年ぶり)が予定されています。こうした学校行事にはもちろんそれぞれの「目的」がありますが、実は最後の行事となる「卒業式」までの3年間で「生徒自身で考え、自ら取組む」力を付けて行くためのプロセスとして設計されているのです。



始業式 代表生徒の言葉の様子

そんな学校行事の中でも特別な意味をもつのが「職場体験報告会」「進路体験を語る会」「母校訪問」「巣立ちの会」の4つです。こうして並べてみると個別の行事に見えますが、共通性があることに気が付きませんか。

実はいずれも上級生と下級生で実施する行事なのです。2年生は1年生に「職場体験」での体験談を、3年生は2年生に受験生として過ごした1年間の「進路体験」を伝える行事になります。また「母校訪問」では3年生が小学生と交流する中で成長した姿を示すとともに母校に卒業報告を行います。そして、「巣立ちの会」も、本校卒業の高校3年生が、中学卒業後にどのような生活が待っているのかを3年生に伝える行事です。

つまり、先輩から後輩(小学生も含めて)へと「学びをつなぐ」ことが、これらの行事に共通する大きな目的です。そして、3月19日の卒業式はその集大成と言えます。

本来であれば、全ての生徒と保護者が一堂に会するのが中学校の卒業式・入学式のスタイルです。しかし、一中の規模ではそれが叶いません。そこで、一部の学年はオンラインで参列する方法をとっていますが、教室での視聴参加ではなく、あえて体育館1階を第2の「式場」として参列する形式にしているのは、3年間の最後の行事の場で、学びをつなぎ、受け止めてほしいという願いがあるからです。

☆ ☆ ☆

3学期に用意されている時間は1、2年生は52日間、3年生は49日間です。この限られた時間の中で一中生の皆さんが自分自身の学びを確かなものにしていくことを期待しています。